

さきがけ

魁 ニュース

発行14年 1月1日

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は格別のご愛顧を賜り心より厚くお礼申し上げます。本年はいちだんと厳しい一年になると思いますが旧に倍するお引き立てを賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

昨今は寄れば悪い話ばかりを聞きますが、これはもうどうにもならないことで、少し話題を変えるようにしたいものです。わたくしの愛する阪神タイガースは16年前から常に最下位かそれに近いところで低迷し、開幕一ヶ月もすればテレビ観戦もする気がなくなります。野村監督を三顧の礼を尽くして迎え、脱皮させてくれるかと大いに期待しましたが、3年たっても少しも変わらず、日本の国ではないけど、もう打つ手はないのかいとなかば諦めておりましたが、ひょっとするとわからんぞと期待したくなるような変化が出てきました。熱血漢星野監督の登場です。彼ならなにかやってくれそうな気がするのです。ご承知のように、イチロー選手の活躍などに野球ファンの目が大リーグのほうにいて、日本のプロ野球の影がすこし薄くなってきています。往年の巨人阪神戦のように野球ファンを惹きつける黄金カードが復活して野球ファンをエキサイトさせるようにせねば野球は大リーグということになりかねません。その意味で今回の中日球団や中日ファンの理解ある協力は高く評価すべきだと思います。いままでファン数が多く、弱くても人が入るとアグラをかいていた阪神球団でしたが今年の来場者減少は著しく、また民間企業の経費削減の影響で年間契約席にもキャンセルがあいつぎ、潮流の変化に安閑としてられなくなったと推察されます。サッカーの世界選手権大会とともに最後までファンを惹きつけるシーズンになってほしいものです。

## ☆1月の魁基準建値は230円/Kgです

昨年12月の電気銅建値は230円で終始しました。本年1月の電気銅建値も230円でスタートしました。したがって今月の魁基準建値は230円になります。価格帯は250円以下の欄で変わりません。

本年の銅価格がどう推移するか、先のことはわかりにくいものですが、あえて私見を述べるなら今年は前半横ばい後半ジリ高とみています。産銅各社の減産、在庫の減少、円安などの影響が出てくると思われます。魁基準価格は40ヶ月250円以下の価格帯が続いていますが本年中に250円超～300円以下の価格帯を見る可能性はかなり高いと見ています。



発行14年2月1日

1月は一気に駆け抜けてしまった。2月は逃げるとか。まあなんと不景気なことか。こんな時はせめて陽気だけでも早くよくなって欲しいものである。

去年から外務省に関する報道はとみに多く、田中前外相が改革に取り組んでいるために起こるさまざまな軋轢を聞き知っていたが、アフガン援助に関するNGO問題で小泉首相が三者に引導をわたしひとまず決着をつけたことはご高承のとおりである。この一件で、実力政治家と官僚の関係がいかなるものか国民の前に明らかになった。どの社会でもそうであるが実力者は実行力をそなえているからその発言や行動は影響力が強く無視しにくい。政治家の場合、実力者は派閥の長であったり幹部であり、国の代表すなわち首相を決めるにも持てる力を発揮する。行政に関することにさまざまな要求や干渉をすることは実力者でなくても政治家なら日常茶飯事のことで官僚にはそれにたいする応接の巧拙が要求される。相手は予算のあるいは人事の決定権を有するものゆえ、適当に国民をあしらうようにはいかない。鈴木氏は積年地元北海道の4島返還問題に取り組み、外務省に顔のきくドンになっていったと思われる。外務省官僚は外相の言うこととドンの言うことが違うのでどっちを聞いたらよいのやら、あっち立てればこっち立たず戸惑うことが山ほどあったのではないかと推測される。田中前外相は改革をすすめるに、省内の抵抗にあい、批判を浴びる行動に出たこともあったが、マスコミにでたことで国民は官僚がどこを向いて仕事をしているか垣間見えてきたと思う。おりしも日経新聞の私の履歴書の執筆が宅急便を開発したヤマト運輸の小倉氏であったが、運輸官僚との許認可をめぐる話からも官僚は自らの見識を持たず政治家に判断を仰ぎ、彼らのご機嫌を損なわないことがお役目としか心得ていないように見える。氏が小学校5年生以下と喝破したのもむべなるかなと思う。

## ☆ 2月の魁基準建値は244円です

1月の電気銅建値は4～8日230円9～31日240円平均価格は238円42銭でした。2月の建値は為替の影響もあり250円と10円上がりました。したがって2月の魁基準建値は

$(238,42 + 250) \div 2 = 244,21$ となり円未満切捨て244円となります。価格帯は250円以下の欄で前月と変わりません。



発行14年3月1日

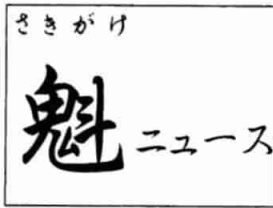
3月の声を聞くといよいよ春だとちよっぴり心が弾む。特に阪神タイガースファンにとって、ことしは星野監督のもと元気なタイガースの活躍が期待できる楽しみがあって開幕が待ち遠しい。甲子園球場へとんでいって応援したくなるような活躍を期待している。元気をもらいたいのだ。USJ効果は関西のホテルの客室稼働率をあげるなど多少認められるが、タイガースが元気よければその比ではない。地盤沈下で沈む関西にほしいのは、井川や藪や安藤が巨人をねじ伏せる快投であり、片岡、アリアス、檜山の外野をぬく長打の爆発だ。日経新聞のうっとうしい記事はあとまわし、まずスポーツ新聞を買って見出しを見て顔がゆるむような朝を迎えたい。タイガースファン以外の皆様、日本のプロ野球が大リーグのマイナーリーグに落ち込まないためにも、タイガースが元気でないとあかんとご理解くださいませ。

いま、アルカリイオン水が静かなブームになっている。水を電気分解し酸性度の高い水とアルカリ性の高い水に分離しアルカリ性の高い水を飲むと病気が治るといふ。人間の体の70%は水分であり、悪い水を飲むと体によくないことはいままでもないので、浄水器などは以前から多くの家庭にとりつけられていたが、いまなぜ、アルカリイオン水かという、こういうことである。体の営みに酸素は不可欠であるが、血液中の活性酸素が必要以上に増えるとさまざまな害をもたらす。活性酸素を分解する酵素の働きは老化とともに衰えるので、水素分子の多く含まれる水を飲んで、体内の余分な活性酸素を還元すると血液がサラサラして、流れが良くなり、糖尿や血圧の数値を下げる効果がある。この水の効果を認める医師はまだ少数であるが、皆無ではない。この水の効果を認識しさまざまな病気の患者に飲用をすすめ数多い治癒例をだしている病院には口コミで聞いた人が全国から訪れている。アトピー、がん、肝炎、糖尿、痛風など、悩んでいるひとは数多いはずである。わが社もとりつけ、飲用を薦めている。健常者で1日2リットル、具合の悪い人は4リットルぐらい飲むとよい。小用がふえるのが厄介だが、飲みやすい水である。健常者には著変の自覚はないが、糖尿病や高血圧の人が飲み始めると下がってきたという人が多い。我が家では炊飯も味噌汁もコーヒーもお茶もすべてこの水を使っている。この分離器はいまやメーカーも増えて4、5万円から40万円ぐらいのものまで種々雑多だが、ご承知のとおり電気分解は陽極陰極がありそこに電流をながす。陰極にはメッキと同じようにじょじょに水分中の金属元素が陰極の表面に付着して性能の低下をもたらす。そんな

ると水は同じように出てきていても水素分子や活性水素の多い水でなくなっている。陰極と陽極が一定日時で逆転することでそれを防ぐものがあり少々値がはるが耐久性が高くてよい。会社や家で私どもが使っているのはその上に活性水素がおおく還元性が高いといわれるものを使っている。値にピンからキリまであるように性能もさまざまと推測される。この話に興味のある方はお気軽にお電話ください。薦める医師の著書や講演のテープもありますので、差し上げます。

### ☆3月の魁基準建値は250円です

2月の電気銅建値は250円で終始しました。また3月の建値も250円で変わらず始まりました。従って3月の魁基準建値は250円になります。価格帯は250円以下の欄で変わりません。



平成 14 年 4 月 1 日

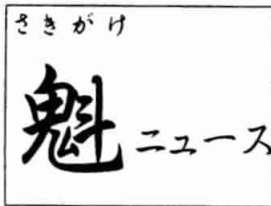
3月の日経新聞私の履歴書を執筆する宇沢弘文氏によると21世紀に人類が直面する最も深刻な問題は地球温暖化であるという。観測史上最速という桜の開花もそれと関係することかもしれない。とすると、桜の下で入学式の記念写真をとることができるのは北国だけの風物になるかもしれない。

彼岸が過ぎて桜が咲き出すと春本番の到来に心弾むものがあったが、今年はますますブルーになるばかりだ。昨年の12月から月をおうごとに悪くなってきている。需要の収縮はさらに深まってきているのだろう。給料が下がったりするのでこれからその悪影響がでってくる。もはや希望的観測は許されない。かといって反対の絶望感におそわれては身がもたない。ここは達観して沈着冷静をたもつことが肝要である。ブルーになりがちな気分を吹き飛ばすために無理にでも呵呵大笑することだ。笑う門には福来る。

今日から4大銀行のひとつの名前が変わった。個人や中小企業を顧客とする部門と大企業を顧客とする部門の二つに分かれている。持ち株会社、連結決算など新しい制度のなかで収益とコストを明確にし営業戦略を顧客のニーズにあわせて立てていくには組織を別々にしてやるほうがよいという考えからすすめられたのだろうが、他の3行がそうしていないのでディテールに弱い興銀の顔をたてた合併会社の苦肉の策ともとれないではない。銀行の数もこの数年でかなり減ってきたがまだまだ絶対数は多い。不良債権の処理を促進するため整理が進められ、そのあおりをうけて中小企業の倒産がますます増えるだろう。銀行のさじ加減ひとつで倒産が左右されるということは、われわれは地雷をふむがごとく予測や対処が不可能な世界に入っているともいえるのではなからうか。

## ☆ 4月の魁基準建値は255円です

3月の電気銅建値は250円で終始しました。4月の電気銅建値は260円と10円値上がりし始まりました。したがって4月の魁基準建値は $(250 + 260) \div 2 = 255$ 円になります。したがって魁の価格帯は250円超300円以下の欄に1ランク上がります。これは平成10年9月以来のことで実に42ヶ月ぶりのことです。アメリカの景気回復、中国の高成長にともなう需要の増大、産銅会社の減産によるLME在庫の減少などがみこまれ、相場水準は漸次きり上がると考えられますが、まだまだ一進一退が続くと思います。



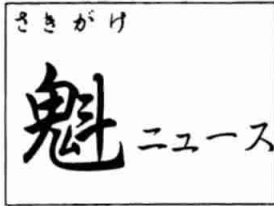
若葉が光り萌えている。山は笑っている。毎年この季節に見るものだが年々この美しさへの感動が膨らんできている。歳のせいだろうか。若い命の美しさへの憧れか。新緑の輝きがまぶしい。ゴールデンウィーク、文字通り自然が最高に美しい黄金の時季だから、それをエンジョイしない手はない。

小泉政権がスタートして1年たった。痛みを伴う改革の断行を是とし国民は支持してきたが、政官の改革なく、民にのみ痛みを押し付け、民力の疲弊を招いている姿に、国民の支持も揺らぎだしている。人口の減少、高齢化が進む社会が過去の延長ではすまないことがはっきりしているにも拘らず、改革に反対する勢力がそれを阻害する。独裁政治なら有無を言わず遂行できるが民主政治では納得できず進まない。だから遅遅として進まない。改革にはそれなりに年月が必要であろうが、失われた10年が20年になるかもしれないのだ。このままいくと、10年後には多分こうなっているかもしれない。国の財政、つまり税収と国家の支出予算のアンバランスが続いた結果、国債の信用がなくなり外国はもちろん自国のなかでも買い手がなくなり、既發債の償還資金も不足しデフォルト宣言をする。銀行の預金も封鎖され引き出しに制限がでる。一定期間を経て、デノミが実施され同時に新貨幣に切り替えられ、平価切下げによるインフレのため凍結が解除された預金は大きく減価している。国債の償還は新国債でおこなわれ現金は出ない。つまり国家は民事再生法を自ら実施するわけである。国民は虎の子の貯蓄を国家に吸い取られ、一夜にして財産を失うがごときことになる。こんなことが実際に起きては大変だが、その可能性が高まってきていると思える。要するに国が借金を踏み倒すのである。言い換えれば国が国民の金を収奪するのである。じつに情けないことが信じがたいことが起こる可能性は十分に考えられるところになってきているのではなかろうか。さすればどのような対策が必要なのか、周到な検討を要するが、昭和21年2月に金融緊急措置令が公布され預金封鎖新円切り替えが施行されている。そのころを経験しておられる先達に話を聞くことも必要だろう。収奪されることを避けるにはどうすれば良いか、避けられないことだが最小限にとどめるにはどうするのが良いか、そんなことを対岸の火事にして置けなくなってきたと思うこのごろである。

☆ 5月の魁基準建値は246円です

4月の電気銅建値は1～7日260円8～30日250円平均銅価は252円38銭でし

た。5月は240円でスタートしました。従って5月の魁基準建値は $(252.38 + 240) \div 2 = 246$ , 19円未満四捨五入246円になります。建値が下がった主の理由は円高です。魁の価格帯は250円以下の欄に戻ります。



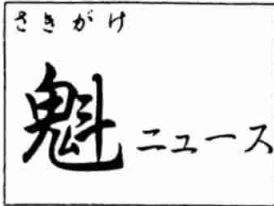
車窓から青々とした早苗田の美しさと、山々の緑が一段と濃くなってきているのを眺めている。自然に恵まれた日本に住むことの幸せを想う。世の中が不況であろうが自然の営みは変わりなく、陽は輝き、雨水は田畑を潤す。おりしもサッカー世界選手権大会が開催され、世界の各地からサッカーファンが日本を訪れているが、彼らにはこの国はどのように映るのだろうか。第一戦は郊外の田園地帯に立てられた新潟会場だったから、上越新幹線の車窓から眺める風景が目に入っただろうが、もう一度機会を作ってこようと思ってくれたら嬉しい。日本はすばらしい自然に恵まれ観光資源も豊かであるうえに、誇るべき伝統文化も数多くある。たくさんの外国人が日本を訪れ、よい印象を持って帰りロコミで伝えてくれれば、観光客はきっと増えるだろう。もう5年もすれば貿易収支が入超になるかもしれないといわれているが、そのときそれを埋めるには観光収入を増やすことが一番よい。そのために安い料金で提供される宿泊施設の拡充がまたれる。料金の高い一流ホテルが彼らの望むところではなく、清潔であれば料金の安いところを好む傾向が強い。サッカーの話に戻るが、入場券が20万円で売りに出されている一方で、会場は空席が目立つ。まことに不思議なことである。どんな仕組みになっているのか知らないが、早くから騒いでいたけど購入方法が面倒で、多くの人をあきらめていたのだろうが、いよいよ開幕となると見に行きたくなるのが人情である。インターネットで申し込みを受け付けるらしいが普段からパソコンをさわってないものにはまったく馴染めない。FIFA（国際サッカー連盟）の本部がイギリスにありイギリスの会社が総発売元になっているらしいが、海外で発売する分はFIFAの収入になり、主催会場になった韓国と日本の組織委員会がそれぞれの国内で販売できる分はそれぞれの収入になるので、もともとFIFAが自分のところの収入を増やすため沢山押さえていたのだが、目標どおりにいかず売れ残ってしまった。それなら日韓両国に売れ残った分の販売をすくなくとも一ヶ月前ぐらいに連絡して完売を期せば良いのに、5月1日からインターネットで6月1日からは当日売りを始め日韓両国に販売をまかすまえにできるだけ売り切ろうとしたため、開会してからようやくFIFAから放出をうけたのが真相らしい。フリーガン対策のため記名式になっており、もともと厄介な手続きがいったらしいが、今またインターネットで買えるとなってサッカーが好きなひとならそれでも朗報かもしれないがインターネットの受付能力からいって売り切ることは物理的に無理だろうから、当分地方会場では1割近い空席が続くだろう。日本の組織委員会と



しては実に残念なことだろうが、打ち合わせ不足でビッグビジネスチャンスを逸すことになった。FIFAとの打ち合わせを十分にしておれば、組織委員会も儲かったしファンも喜んだはずである。

### ☆6月の魁基準建値は240円/kgです

5月の電気銅建値は1～6日250円7～31日240円で推移し平均銅価は240円95銭でした。6月の電気銅建値は240円でスタートしました。したがって6月の魁基準価格は $(240,95 + 240) \div 2 = 240$ 円48銭円未満切捨て240円になります。価格帯は前月同様250円以下の欄です。



6月、日本と韓国はサッカー一色に染まった。サッカーファンならずともテレビ観戦にひきよせられた。鍛えられた技、走りまくる体力、高さ、速さ、機敏な動き、それらが織り成すゲームの展開は見事である。世界最高の水準をもったチームが民族や国を代表して競うのだから応援もすごい力のいれようで、お祭り騒ぎのようになるのも当然だろう。日本チームもよく頑張った。これを機にサッカー選手を目指す若者が増え、底辺が広がれば日本チームの力もあがるだろう。4年後ドイツで開催される大会の活躍に大いに期待したいものである。

このサッカー大会が齎した経済効果はささやかなものであったが、日本と韓国が共催することで、サッカーファンの若人たちの間に民族間の垣根を越える親近感が生まれてきたことはなによりである。とくに韓国には歴史的事実からくる日本に対する特別の感情があり、隣国でありながら互いに遠い国であった。現に韓国は日本の天皇の訪韓を拒み受け入れていない。若人がスポーツをとおして交流を深め、互いの文化を理解することがより親密な隣国関係の構築につながってくれることを期待したいものである。遠い親戚より近くの他人という。近所は仲のよいほうが住み心地がよい。海外から応援に来たサッカーファンにとって、わが国の宿泊施設の評判はあまりよくなかったようだ。彼らにとってリーズナブルな所が少なかったのだろう。ユースホステルのように、サービスはセルフでする変わり、料金は安いところがほしいのだが、日本にはこれが少ない。東京ではビジネスホテルですら彼らの感覚からはアンリーズナブルなのだ。現に大阪では釜ヶ崎にあるホテル群（蚕だなベッドで一泊1～2000円）が満員になったそうである。

政府は2007年に訪日観光客を800万人にする計画を立てているらしいが、それにはさまざまな宿泊施設の充実も必要な対策のひとつであることを、一流のシティホテルが大会中閑散としていた事実が示唆しているといえよう。

#### ☆ 7月の魁基準建値は242円です

6月の電気銅建値は1～6日240円7～23日250円24～30日240円平均銅価は245円50銭でした。7月は240円でスタートしました。従って7月の魁基準建値は $(245.50 + 240) \div 2 = 242.75$ 円未満四捨五入242円になります。魁の価格帯は250円以下の欄で前月同様変わりません。

さきがけ

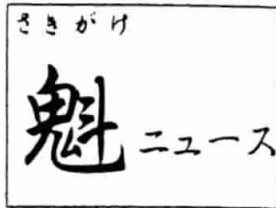
## 魁ニュース

口に出してもせん無いことだが、「暑いですね」が挨拶言葉のあたまにくる。誰もが共感していることだから肯き、そしてまた暑さを意識する。建物の中はもちろん、乗り物の中もクーラーがきいて快適だから、外との格差は大きい。車が増え、クーラーが増え、それらが出す排気熱は大気の温度を高め、夜になっても気温があまり下がらない。快適を覚えた身には耐え難い。

大阪で、7月15日29日（どちらも月曜日）電話回線が長時間通話不能になった。大阪へ電話をするけどただいま混み合っているのので後でかけてくれという音声案内があるだけでお困りになった方が多いはずである。原因はQ2ダイヤルでいかがわしい情報を流すところが、携帯に一度に数千のワンギリ電話をかけることにある。ワンギリは携帯には記録が残り、相手が電話を取るまでに切ってしまうから、料金はかからない。そこへ電話をかけたら高い料金の請求書が後できて難儀することになるらしいが、一度体験したら2度とは引かからないが、業者は絶えなく同じ手口を使っている。同じ内容のものを同時に一括してかけるサービスを提供しているのは、ほかならぬNTTであり、利用者の利便を考慮して開発したサービスだろうが、悪用されて一般の回線を不通にしなければならないのは、本末転倒でお話にならない。午後2時ごろになって通常に戻ったが、緊急の連絡を要するとき電話回線が使えなかったため助かる命を救えなかったということがおきているかも知れない。我々にとっても週明けの月曜日は電話の使用が多いときであり、それが長時間不通になるのは極めて迷惑なことである。NTTは不作為の営業妨害をしたといえよう。NTTは電話回線が公器であることを忘れ、利益追求を優先する姿勢が強くなっている。民営化の流れのなかで、私企業として売り上げの増大やコストダウンに取り組むことは当然だが、公共性を重視する姿勢を失ってはお話にならない。このようなことが2度と起こらないようしっかりした対策を講じてほしいものだ。

## ☆8月の魁基準建値は225円です

7月の電気銅建値は1～11日240円12～19日230円22～31日220円で推移し、平均銅価は230円43銭でした。従って8月の魁基準建値は $(230,43+220) \div 2 = 225$ 円21銭円未満切捨て225円になります。価格帯は変わらず250円以下の欄になります。



ようやく朝夕は凌ぎやすくなり、虫の鳴き声にも秋の気配を感じるころになりました。今夏は東北や北海道を別にして、平年より気温が高く雨も少なく台風が来ていなかったら大変な渇水になっていたところでした。アメリカやアフリカは渇水で農作物が凶作になっている一方、ヨーロッパや中国では大洪水の被害が発生しています。ヨーロッパの洪水の報道を見ると、地勢の関係でゆっくりした流れのため、河川を越えた水はすぐにはひかず、建物や田畑がすっかり水没したまま何日も経過するのでその被害は大変なものと思われます。中国の洪水は長江（揚子江）の洞庭湖付近のもので水がめ役をしていた洞庭湖の貯水力を上回る大量の雨が上流で降ったためといわれています。このように、平年とは異なる気象をもたらす原因はいったい何にあるのでしょうか。大方は、地球温暖化をもたらしているものと同じだと考えられるでしょう。とすれば、今後も同じようなことが繰り返されると思わざるを得ません。

子供のころの話ですが、学校への通学道に毎年稲の刈入れころになると溢れて近所の家を洪水にする川がありました。今は治水対策が施され、近年は洪水になった話はまったく聞いておりません。明治の昔、十津川の大洪水の話はあまりにも有名です。全国一の多雨地帯ですから、村ごと北海道へ移民を決意したほど、すごいものだったのですが、最近はやはりダムをこしらえるなどの治水対策が進んだおかげで洪水の被害が出た話は聞きません。治水につながる対策のひとつに、森林の保全が重要であると聞きますが、戦後の日本は燃料として大量に伐採した跡に杉やヒノキなど針葉樹を植えました。しかし広葉樹林に比べて、保水力が劣り水源池の貯水力低下をもたらしているといわれています。今後、日本は洪水よりむしろ渇水に悩むことが、年々高まっていく恐れがあるのではないのでしょうか。世界の水使用量は鉄鋼、化学、半導体など水を大量に使う産業の急増で飛躍的に伸びています。地球上の水は約14億立方キロメートル。大半は海水で人間が使える淡水は年間9千立方キロメートルに過ぎない。世界水会議(WWC)は2025年には世界人口の4割が深刻な水不足に直面すると報告しています。シリアのゴラン高原から流れるヨルダン川の水資源を巡るイスラエルとシリアの対立、エクアドルとペルーの間で起きた川の源流管理を巡る武力衝突、インダス川やナイル川でも水資源を巡る争いは絶えないと聞きます。戦略的な水の確保が周辺諸国にとって重要な政治課題になってる国が沢山あるのです。水資源に恵まれた日本から水が輸出され外貨を稼ぐ時代がそんなに遠くないかもしれません。ちなみに財務省貿易統計によれば2001年に日本から米国やアジア各諸国に輸出された水は2371

金額で4億5千9百万円。誰が買うのか。主にその地域に住む日本人だそうです。しかし水不足に悩む台湾の半導体産業用に屋久島の水が昨年から輸出されているという話もあります。因みに4億5千900万円を2371トンで割ると1リットル当り193円、屋久島の水は10円以下だそうです。

今、南アフリカのヨハネスブルグで環境保護と経済発展を両立させる方策を話し合う環境開発サミットが開催されているが、きれいな水が得られない途上国支援（10億人）が多少とも進んでほしいものである。

☆ 9月の魁基準価格は220円です



8月の電気銅建値は220円で終始し9月も220円で変わりなくスタートしました。したがって9月の魁基準建値も220円となります。価格帯は変わらず250円以下の欄のままです。

さきがけ  
**魁**ニュース

彼岸が過ぎてめっきり秋らしくなりました。10月ともなれば今年も後三月、月日のたつのは早いものと思いますが、今年の年の瀬は大変なことになりそうです。日銀がいくら金融を緩めても、銀行の保有株を買い上げても、地価は下がり株も下がる。最後の打つ手は、銀行の抱える不良債権を処理することだと内閣改造で金融相をとっかえた。不良債権を買い上げようが、前回同様国が資本出資をしようが、処理する後からまた増えてくるのではなかろうか。迷走しながら行くところまで行く、落ちるところまで落ちる。今はまだその過程にあるのだろう。

この頃、テレビのコマーシャルで証券会社が特定口座の宣伝をしている。来年から証券税制が変わることと関係があるらしい。説明を聞いたが実にややこしい。変わる税制の一番大きな特徴は源泉分離課税がなくなって申告分離課税に変わることだ。源泉分離課税は譲渡金額の1%、申告分離課税は差益の20%、仮に差益が5%なら税額は同額である。差損は差益と相殺できる。繰越差損も3年以内は可とされている。しかし買った株式を売らないでずっと持っている人は申告の必要はないが、必要あって売った場合は申告しなければならぬから、一年に何回も売買する人なら大変な手間がかかる。それを特定口座を設定した顧客には証券会社が事務処理を代行し一年分の申告のための資料を提供してくれる。顧客の困り込みにつながるので証券会社はテレビでコマーシャルをしているわけだ。

銀行の預金利子が20%の源泉分離課税であるのに、証券が1%の分離課税はおかしいところから申告課税に変えたとも言われているが、真相はそうではない。財務省官僚の狙いは国民個人の資産の把握にある。住民基本台帳ネットにリンクさせ、背番号制にすればもはやすべてが白日の下にさらけ出され、粗漏なき把握が可能になる。聞いた話だが、個人が持っている株式は約60兆、そのうち30兆は把握できているが残りはタンスに入っていたり配当10万円未満の申告不要に分散されていたりするので把握できていないらしい。それをしっかり掴みたいのが彼らの意図するところらしい。日本の個人持ち株比率はアメリカなどと比べてきわめて低い。これを高めれば資本市場の活性化につながるのだろうが、今度の証券税制の改革は個人の株離れを促進させるほうに働くのではなかろうか。

### ☆ 10月の魁基準建値は220円/kgです

9月の電気銅建値は220円で終始し10月も変わらず220円でスタートしました。したがって魁基準建値も220円になり先月同様変わりません。価格帯も250円以下の欄で変わりません。

さきがけ

## 魁ニュース

10月は月初夏の陽気下旬は冬の天候になり気温の変化のまことに激しい一月であった。このところ1週間ほどの冷え込みで紅葉はその色合いを深め、昨年なら11月中旬以降だった紅葉の見ごろが初旬に繰り上がったように思える。山はことに早く、高い山ははや雪化粧をして白く輝いている。例年より早く下着もスーツも冬着にかえ、風邪を引かないようにしたらよかったのだが暦どおりに考えていて、風邪を引いてしまった人が多いようだ。友人の医者に千客万来だろうと冷やかしたら笑っていた。

さて、今年も残すところわずかになり、厳しい明け暮れの1年の終わりを迎えようとしているが、デフレ基調はまだまだ続き、来年も厳しい展開が我々を苦しめることが必至と思われる。需要の減少が売り上げの低下をもたらし、社員一人当たりの売上高の減少が赤字経営に直結しているのが大方の企業の現実の姿であろう。赤字経営が続けば銀行の融資による資金調達も断たれるから、収支の改善は経営者にとって必至の命題である。これまでは人員の削減、経費の節減などの対応に取り組んできたが、それにも限界があり、次はなにかと頭を悩ませる。新しい商材や販路の開拓など机上の理論はわかるし、それができれば素晴らしいが、実際にはそれほど簡単に出来得ることではない。とって手を拱いているわけにはいかない。収支を改善する一番の近道は一人当たりの売上高の向上、すなわち生産性の向上である。ところが、価格競争が激しく粗利率が下がり、取引単位が小口化し、伝票枚数は減ってないのにトータルではなかなか金額があがらない。伝票枚数が減っていないということは、手間は結構かかっていることを示す。まわっていかないから人減らしにもおのずと限界があることになる。これを突き破るには、取引高の少ないお取引先との取引の中身を詳細に調べて、継続するかどうかを再検討し、営業社員の生産性すなわち中身の濃い営業活動ができる態勢作りにつなげる必要がある。どこの会社でも過去からのつながりで、小額であるが口座があり、掛売りをしている取引先を何社も持っているはずである。メインは他社で間に合わないときだけ注文してこられるところにメインのところと同じサービスをして便宜に利用していただいている先もあろう。業務のすべてを前からのまま継続して生産性を落とさないようにすることは、社員に過剰な負担をかけ、続くことではなく、そのためさまざまな弊害をもたらす。取引高の少ないところは営業社員の訪問もすくなく情報入手もすくない。今日のように変化が激しいときは後手に回って後でホゾをかむ思いをするかもしれない。そのようなロスを未然に防ぐには、思い切って（集中と選択）が肝要である。なおいっそうのリストラ（構造改善）は集中と選択ではないだろうか。精鋭で生産性を高め利益のあがる経営を目指す、言うことは簡単だがいざ実践となるとなかなか難しいことだと頭を悩ませるこのごろである。

☆ 11月の魁基準建値は227円/kgです

10月の電気銅建値は1~20日220円21~31日230円平均銅価は224円09銭  
でした。11月の建値は230円でスタートしました。したがって11月の魁基準建値は  
 $(224,09 + 230) \div 2 = 227.04$ 円未満切捨て227円となります。価格帯は前  
月同様250円以下の欄で変わりません。



さきがけ

## 魁ニュース

今年の紅葉は、これほど見事なのは初めて見ると言えるほど美しいもので、十分に堪能させてもらった。ほとんど散って葉を落としてしまったが、これを集めて燃やし焼き芋をいただくのも余慶のひとつで晩秋を彩る風物詩といえよう。

師走に入り、本年も残り少なくなってきた。金融不安、デフレスパイラル、倒産や失業の増加、株価の下落、不安と混沌に満ちた一年であった。唯一明るいニュースはノーベル賞受賞者が二人でたことである。たゆまざる努力があったから偶然のミスを偉大な発見にできたこと、サラリーマン技術者であることなど教示に富む話題であった。多くの人に希望と勇気を与えるニュースが乏しいだけにひととき明るいものであった。高円宮のご急逝もきわめて残念なことだった。天皇ご一家を除いては、皇室外交ができる唯一の人だっただけに日本の国にとってもおしまれる悲しいニュースであった。海外では今年のニューヨークのテロ以降もあちこちで小規模のものが続き、単に文明の衝突といって片付けられない根深いものを感じるのだが、アメリカとイラクあるいはロシアとチェチェンの対立の構図を見ると、大国が政治的経済的利益を求めて、武力を背景に強圧しているのではないかという見方もあるように思える。それに対する反動がテロ活動につながっているとすれば、テロの根絶は無理である。北朝鮮の拉致問題、かなりこじれて解決には時間がかかりそうである。2国間の面子をかけた対決に3家族は引き裂かれたまま、じっと耐えるしかないのだから、心身とも休まることなくさぞやつらいことだろうと同情を禁じえない。

さて、小泉首相に異を唱える声がかまびすしくなってきた。テレビ番組に出てくる議員の言っていることを聞くと、彼らの本音は日本国の未来を憂える憂国心でなく、小泉を下ろして景気を良くしないと自民党が総選挙で負けることを、心配しているようにおもえる。小泉支持率イコール自民党支持ではないから地方選挙で自民党候補は苦戦している。2～3年は郵政や道路問題など構造改革にとりくむため国民に辛抱してほしいとアナウンスした小泉首相を多くの国民が支持して耐えているのに議員は選挙で負けることを恐れて早あふたしている。つかのまの景気回復を図りまた借金を増やしてその後避けられない緊縮のくるしみを再び国民に押し付けるのか、無駄を廃するための改革を推し進めていくほうがいいのか、どちらがよいのか難しいところだが、小泉内閣は道半ばなのだからもう少し時間を与え様子を見守ることが肝要なのではなかろうかと思う。しかしこの問題の正解がどこにあるのか私にはわからない。

さいごに本年一年間私どもに賜りました暖かいご支援に心より厚くお礼申しあげますとともに、来年もかくべつのご愛顧を賜りますようなにとぞよろしくお願い申しあげます。

NO264-2

☆ 12月の魁基準価格は235円/kgです  
11月の電気銅建値は230円で終始しました。12月は10円上がり240円でスタートしました。したがって12月の魁基準価格は $(230+240) \div 2 = 235$ 円になります。価格帯は250円以下の欄で前月同様変わりません。